

西備輕鉄便覧

339

473



始



289
493

西
備

輕便
鐵
覽

アサヒルビーロ造元全景

須受牌賞譽名會進共及會評品會覽博各於
領受賞等一國每會評品合組造酒具島廣於

酒清等優



元 造 釀
良 江 郡 品 芦 後 備

ト 部 讓 少

(南場車停家驛線道鉄便輕備所)

產 國 後 備

縞 後 備 場 本

屋 間 却

大

坂 本 商 店

長電 五番

福山町字笠岡町

松

マルマツ商店

長電 三七番

福山町字府中町

因

大 平 商 店

長電 三〇番

福山町字深津町

(順ハ、ロイ)

EP5W1K07屋林田和

339-473

は し が き

兩備輕便鐵道の開通は我備後の地に於ける交通上の一大進歩發展にして想ふに今後此鐵道に依る旅客の集散は頗る夥しきものあらむ

本便覽は此等旅客の便にもとて兩備輕鐵の概梗より沿道の名所古跡を載す然れども其繁を避け簡にして明ならむことを期せり請ふこれを諒せられよ

終りに本誌偏纂に際し特に便宜を與へられたる兩備輕鐵社長河相三郎氏及全會社員御一同及府中町栗田直三郎氏網引村宮内宮梅三郎氏に對し謹んで其御厚意を謝す

大正三年七月

偏者

奧條 箕園



(かなぬさ生)場列陳店服吳んまにせ

? 確實正札

福山大黒町



ぜにまん吳服店

電話 三六番
振替大阪一五四七九番

? 安價提供

新流行の

和洋雜貨店

確實 (た) 正價

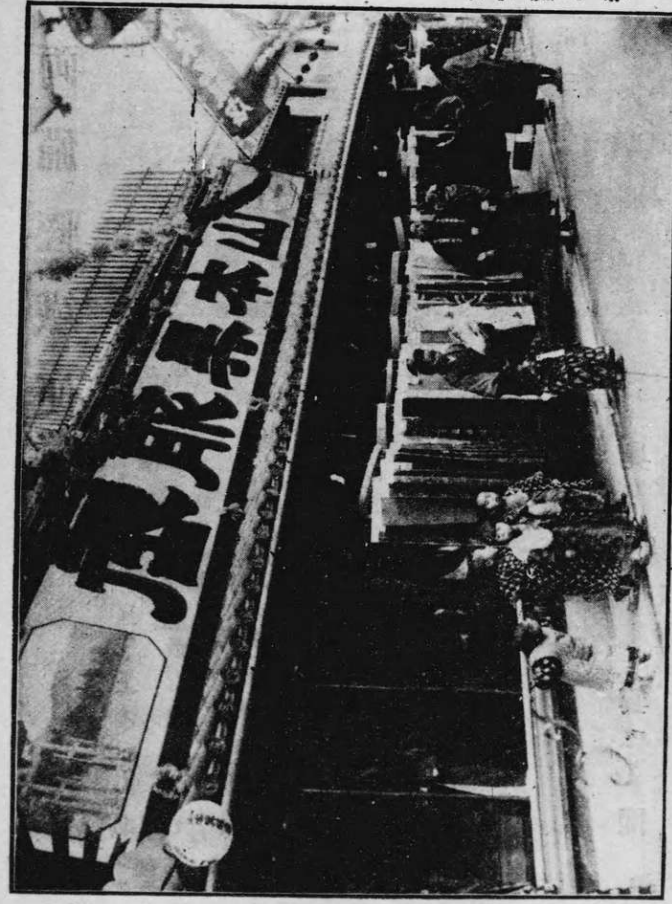
箕田明正堂

福山胡堂上

長電話一九六番



福山府中町角
山本吳服店
長電話一番



萬袋物問屋

眼鏡 煙管 羽織 紐 錢入
備後福山笠岡町

山田竹太郎商店

長電話 二七六番
振替大坂 一二七九〇番

兩備輕鐵便覽

奧條箕園編

線路概括

兩備輕鐵鐵道は其起點を備後福山町公園東端即ち山陽線福山驛の北隣に置き、深安郡神邊、芦品郡新市町の如き本市街を貫通し、全郡府中町を終点とす、是れ第一期線にして今回芽出度開通したるものなり

線路の延長は拾三哩五拾四鎖にして、此間墜道貳ヶ所河川に架せられたる鐵橋四ヶ所あり、此處橋梁に架せられたるもの多けれども畧す

墜道は深安郡奈良津村に於て四百六拾尺、大正二年十一月工を起したるも、坑内便車露出交工工程の如く進捗せず、漸く本年六月廿七日坑内の工事全部出来せり、工事は未組の南に於て終行せられ頗る完全に成就せり、他は芦品郡戸手村に於て堤坊下に穿たれたるもの延長四十尺なり

鐵橋の河川に架せられたるもの四ヶ所、曰く、高屋川、加茂川、服部川、神谷川、就中神谷川最も廣くして、三十呎の橋梁七連、即ち全長二百十呎を有す

- 停車場八、停留所六、即ち左の如し
- 一、兩備福山停車場 (山陽線福山驛北隣)
- 二、横尾停車場 (深安郡千田村横尾中央)

28
未組の南
の延

革 沿 鐵 輕 備 河

河備輕便鐵道株式會社沿革

河備輕便鐵道株式會社は明治四拾四年拾貳月の創立にかゝり福山府中高屋間の運輸交通を助けんがため地方有志者の計畫せしものにして資本金四拾五萬圓なり



(長 社 相 河)

元來本線路は去る明治貳拾五年頃より地方有志が幾度も企圖し全參拾年五月備後鐵道株式會社の設立を見るに至りたるも經濟界其他の事情にて遂に成立の機運に接せざりしが其有望にして且つ必要のものたるこゝは識者の熟知する處あるが故に沿道各地の有志者甚だ遺憾としかし數次會合協議の結果全四拾參年九月更に福山府中井原間に河備輕便鐵道の敷設を企圖し資本金を五拾萬圓と定め株數壹萬株の株式組織とさし其敷設免許申請書を其筋に進達したりしが本線路中高屋井原間は先願者あるの故を以て願書の訂正を要する旨鐵道院の指示により全四拾四年五月壹日發起人會を開き右部分の線路を創設し資本金貳拾五萬圓株數九千株に改定し全年六月貳拾日付を以て願書を再出したるに全年八月貳拾壹日免許狀を下附せらるゝに至れり之れ實に創立委員長河相保四郎氏委員村上森治郎氏等の盡力に據るものとす序て委員長河相保四郎氏辭任せられ河相三郎氏代て委員長となり全年九月拾日發起人會を開催し株式引受方法を議定す全年拾壹月貳拾八日創立總會を福山俱樂部に開き創立費の承認並に定款

線路の幅員は貳呎六吋、十噸の氣罐車を備ふるを以て、優に十輛乃至十二輛の客車を牽引するに足れるも、奈良津村に於ける急勾配四十分なるを以て平素五六輛の客車を曳引せしむる豫定なりと

本鐵道は輕便式中の最も優秀なるものにて、前記の如く牽引力の大なるは言ふに及ばず、客車の如きも最新式に依り旅客に便利と快味を與ふる主とし、便と美を兼ねたるホギー式のものなりと

三、神邊停車場 (全郡川南村)
 四、湯田村停留所 (全郡湯田村宇徳田)
 五、道上停留所 (芦品郡道上村)
 六、萬能倉停車場 (全郡萬能倉村)
 七、驛家停留所 (全郡驛家村)
 八、近田停車場 (全郡近田村)
 九、戸手停留所 (全郡戸手村)
 十、河備天王停車場 (全郡戸手村)
 一、新市停車場 (全郡新市町)
 二、高木停留所 (全郡國府村高木)
 三、鵜飼停留所 (全郡廣谷村鵜飼)
 四、府中町停車場 (全郡府中町東方)

兩 備 輕 鐵 · 沿 革

を議し更に重役の選舉をおせしに左記の諸氏當選と茲に兩備輕便鐵道株式會社の創立を見るに至れり

取締役社長 河相三郎 取締役 延藤吉兵衛 斯くて會社は線路の測量及設計を東京工務所に委嘱し全四拾五年壹月實測に着手五月拾貳日測量及設計を終了し五月貳拾貳日工事施行認可申請書を其筋へ進達したり全年七月より用地買収に着手し其完了を俟つて工事を三區に分ち各入札に付し大正貳年參月貳拾五日を以て起工し日夜督勵工事の進行に力めたり

創立當時資本金四拾五萬圓の豫定ありしも線路變更及諸物價騰貴の爲め建設資金七拾萬圓を要するに至りしを以て大正貳年壹月參拾日臨時株主總會を開き資金貳拾五萬圓の借入を決議するの止むべきに至れり

次で軌條機關車其他諸材料の購入契約を締結し土工の了るや直ちに軌條引延砂利の散布並に諸建物の築造をふと大正參年六月遂に福山神邊府中間を竣成し七月十七日以て其開通式を舉行することゝなれり

工事は河相社長監督の下に宮野技師長專ら之れを擔任し業務は社長之れを統轄せられ創立以來實に貳年七ヶ月専心献身して能く此事業を遂行し終始一貫世間の批評を念とせずして經營に努力せられたる河相社長の功績は眞に没すべからざるものとす

大正參年五月末日に於ける五拾株以上の株主左の如し

株數	地方	株主姓名	株數	地方	株主姓名
五二〇	深安	桑田三郎助	二八五	深安	桑田彦三郎
三八〇	全	河相三郎	二五〇	全	大平要太郎
三五〇	芦品	延藤吉兵衛	二〇〇	東京	阿部正恒
二〇〇	甲奴角倉博佐		一八五	深安	井上堅太郎

兩 備 輕 鐵 沿 革

[illegible]

兩 備 經 鐵 沿 革

五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	株數		
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	地方		
宮野牧太	石岡シゲ	信岡錦一郎	桑田喜四郎	安原和乎	高田嘉助	千葉研藏	森田誠一	卜部讓介	佐藤範雄	品		
水川勝三郎	梅田元雄	水川勝三郎	水川熊太郎	水川熊太郎	水川熊太郎	水川熊太郎	水川熊太郎	水川熊太郎	水川熊太郎	株主姓名		
五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	株數		
沼限	全	甲奴	小田	全	全	後月	全	全	全	地方		
林時永半	時永半	高木九	岡本音	大塚幸	上野米	山成軒一	三島ウ	中村金次郎	平田真之助	吉田直右衛門	和田百太郎	株主姓名

兩備輕便鐵道案內

●旅客及手荷物

一、連絡乗車券は發線主管院社に於て各自之を調成し其所屬連絡驛に備付くる事

二、連絡乗車券の通用期限は各鐵道線を通算し其哩數に應じ左の通りとし往復乗車券の通用期限に關しては其都度之を定むる事

一、五十哩未滿

當日限り

一、五十哩以上百哩未滿 二 日
一、百哩以上は百哩若くは其未滿を増す毎に一日

を加ふ

三、旅客及手荷物は

常社線各驛と院線京都、大阪、神戸、金神以西尾道以東各驛及廣島驛

四、當社並等は院線三等に特等は貳等に準ずる事

● 一般貨物及小荷物

五、貨物通知書は發線に於て發行する事

六、貨物通知書には運賃は各線各別に算出したる額を分割記載する事

七、一般貨物及小荷物は

兩 備 輕 鐵 案 內

●連帶運輸收入

當社線各驛と院線東海道線及山陽線各驛相互間
但し當分直扱及配達の取扱をなす
ハ、當社貸切扱は四噸を以て限度とし連帶運輸の場合は
院線噸扱を社線貸切扱に又當線貸切扱を院線噸扱に取
扱ふことを得るものとす

九、旅客運賃は各自所定の貨率に依り大貨物運賃、手荷物運賃、小荷物運賃、郵便物運賃、増賃金、及最低運賃は連帶鐵道協定の貨率に依り收入する事

但し本項賃率は當分の内院所定の賃率を以てする事
明治三十九年逓信省告示第四三二號に依る官用旅客

井に大貨物院運賃は社通じて半減するものとす

十一、旅客運賃割引の場合は各線各別に計算し厘位以下

は錢位に切上げ併算收入する事

小兒(割引の有無に拘らず)及官用賃金は各線大人賃金の併算額を折半し雇位以下は錢位に切上げ收入するものとす

十二、荷物運賃收入上哩程に端數を存する場合は各線各別に一哩に切上ぐる事

十三、旅客及小手荷物扱以外の運賃は総て院社各別に算出し厘位以下は銭位に切上げ併係收入する」

十四、手荷物運賃、小荷物運賃、郵便物運賃及増賃金は各線の哩程を通算したるものに依り算出し、厘位以下は錢位に切上り收入する事

十五、新聞紙雜誌運賃は距離の遠近に拘らず各線を通して一斤に付金一錢の割合を以て收入する事

但し最低運賃金五錢とす

●連帶運輸收入分配

十六、旅客運賃は各線所定額を分配するものとす

十七、貨物運賃は貨物通知書に依り各線の取得額を分配する事

十八、増賃金最低運賃及客車收入に係る諸荷物運賃は各線の哩程（各端數を切上げたもの）に依り分配し、厘位以下を生ずる時は發線の方へ切上ぐる事

但し小荷物運賃にして配達賃の關係上一ヶ月中取扱に係る發着驛毎の割賦高に厘位を生ずるまきは總て發線に切上ぐる事配達賃として分配する金額に就き亦全し

十九、新聞 雜誌運賃以外の割賦金にして一線の收入金壹錢に滿たざるものは金壹錢に切上ぐる事

外 鉄道運輸規程第二十三條に依る割増賃金は各關係院社の所得配達賃は著線の所得とす

廿一、 旅客及荷物に關する損害は之が發生の原因を惹起したる線路明かあるとき其線路主管院社に於て其の賠償を負擔し不明なきは實際運送したる哩程に比例し、連帶其の賠償額を分配負擔する事
廿二、 院社運賃輸入は發線主管院社に於て毎月々末迄に其の前月分を分配計算し到着線主管院社に報告する事
廿三、 院社に於て連帶運輸に關する諸帳簿等の査閲を求むる時は相互其の要求に應ずるものとす
廿四、 旅客又は荷物に關する損害を發見したる場合は其損害を發見したる院社より他の關係院社へ即時其額未を報告する事
廿五、 旅客運賃決算報告は一ヶ月中に乗車したる各等人員運賃及乗車券發賣番號等を發着驛別に記載する事
廿六、 前項以外の客車収入に屬すべき各科目に對する決算報告は各科目毎に一ヶ月中取扱に係る各線の割賦高を發着驛別に記載する事
 但し此報告には別に計算材料を添付する事
廿七、 貨車収入に屬すべき各科目に對する決算報告は各科目毎に一ヶ月中取扱に係る運賃を發着驛別に記載する事
 但し此報告には別に計算材料を添付する事

二十斤迄	十八斤迄	十六斤迄	十四斤迄	十二斤迄	十斤	九斤	八斤	七斤	六斤	五斤	四斤迄	一斤迄	秤 運算 里程
二十三錢	二十一錢	十九錢	十七錢	十五錢	十三錢	十二錢	十一錢	十錢	九錢	八錢	七錢	五子哩未滿	

學生定期乗車券	普通定期乗車券	回数乗車券
一ヶ月乃至八割引チナス各驛發賣 ニシテ途中下車ヲ許サズ	一ヶ月三ヶ月六ヶ月一ケ年ノ四種ト シ二割五分乃至七割引チナス各 驛發賣ニシテ途中下車隨意トシ 二十五回分九十日間通用トシ二 割引ニテ各驛發賣チナス途中下 車ヲ許サズ	

普	三十人以上 五十人未滿	五十人以上 一百人未滿	一百人以上 二百人未滿	二百人以上 三百人未滿	三百人以上
通	一割引	一割五分引	二割引	二割五分引	三割引
學	三十人以上 五十人未滿	五十人以上 一百人未滿	一百人以上 二百人未滿	二百人以上 三百人未滿	三百人以上
生	一割五分引	二割引	二割五分引	三割引	三割五分引

たるときは其相違を爲したる院社に於て之か更正報告表を作り發見したる月の決算に於て訂正する。

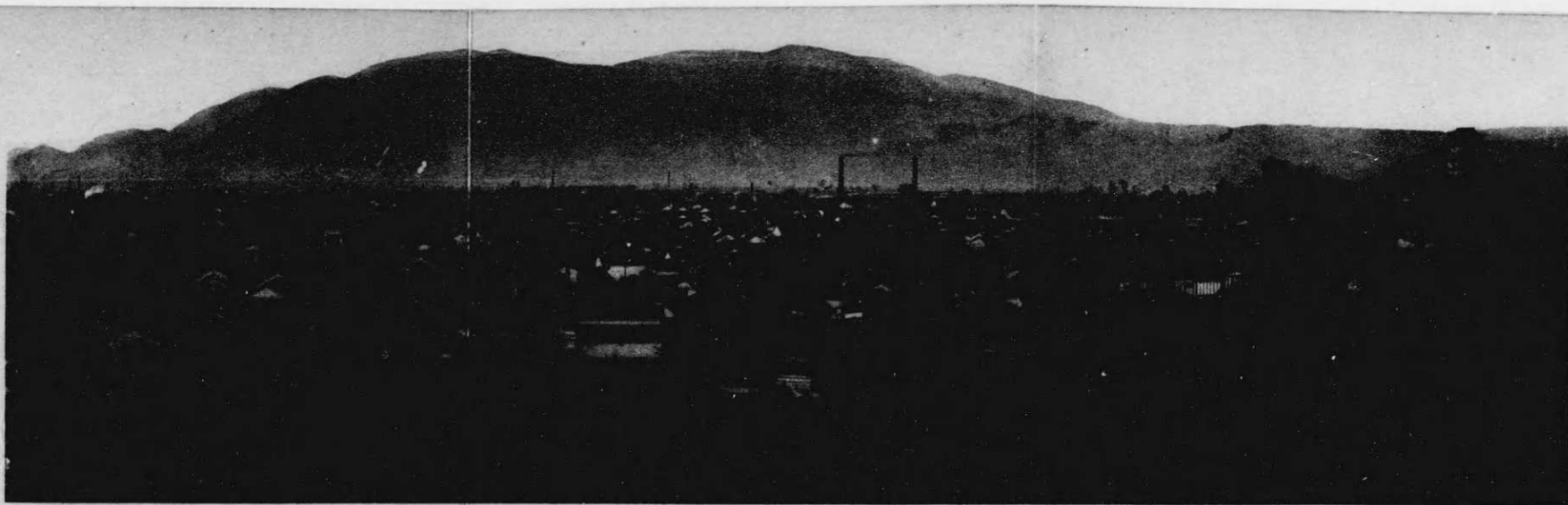


內 案 鐵 輕 備 兩

大貨物運賃表

哩程別	通常斤扱 (百斤ニ付)				通常噸扱 (一噸ニ付)				貸切扱 (一噸ニ付)			
	一級品	二級品	三級品	高級品	一級品	二級品	三級品	高級品	一級品	二級品	三級品	高級品
至自 五 哩	二錢七厘	二錢九厘	三錢三厘	四錢一厘	三十二錢	三十五錢	四十錢	四十八錢	二十錢	二十一錢	二十二錢	三十錢
至自 六 哩	三錢一厘	三錢四厘	三錢九厘	五錢一厘	三十八錢	四十二錢	四十九錢	六十錢	二十四錢	二十五錢	二十六錢	三十八錢
至自 七 哩	三錢六厘	三錢九厘	四錢六厘	六錢一厘	四十四錢	四十九錢	五十八錢	七十三錢	二十九錢	三十錢	三十三錢	四十七錢
至自 八 哩	四錢一厘	四錢四厘	五錢一厘	七錢一厘	五十錢	五十六錢	六十七錢	八十五錢	三十四錢	三十六錢	三十九錢	五十六錢
至自 九 哩	四錢六厘	四錢九厘	五錢六厘	八錢一厘	五十六錢	六十四錢	七十七錢	九十八錢	三十八錢	四十一錢	四十四錢	六十四錢
至自 十 哩	五錢一厘	五錢四厘	六錢一厘	九錢一厘	六十二錢	七十二錢	八十六錢	一圓十一錢	四十四錢	四十六錢	四十九錢	七十三錢
至自 十一 哩	五錢六厘	五錢九厘	六錢六厘	九錢六厘	六十八錢	七十九錢	九十四錢	一二圓一錢	四十八錢	五十錢	五十三錢	七十九錢
至自 十二 哩	六錢一厘	六錢四厘	七錢一厘	一圓一厘	七十四錢	八十六錢	一圓一錢	一圓二錢	五十二錢	五十四錢	五十七錢	八十四錢
至自 十三 哩	六錢六厘	六錢九厘	七錢六厘	一圓六厘	八十錢	九十二錢	一圓一錢	一圓三錢	五十六錢	五十八錢	六十一錢	八十八錢
至自 十四 哩	七錢一厘	七錢四厘	八錢一厘	一圓一厘	八十六錢	九十八錢	一圓一錢	一圓四錢	六十錢	六十二錢	六十五錢	九十四錢
至自 十五 哩	七錢六厘	七錢九厘	八錢六厘	一圓六厘	九十二錢	一圓零四錢	一圓一錢	一圓五錢	六十四錢	六十六錢	六十九錢	一圓零四錢

院社線連帶ノ場合斤扱ハ百斤ニ付金四厘噸扱及貸切扱ハ一噸ニ付金六錢ヲ加算徴收スルモノトス

[illegible]

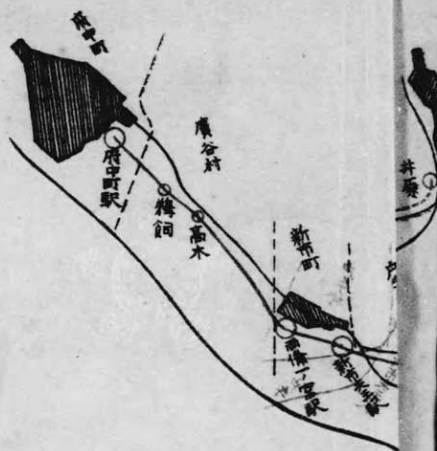
速敏荷出賣多利薄良精質品



(圖の驗實器霧噴式村河許特)

賣小卸式一具農藝園器絲製蠶養
理修並作製械機諸他其

番(四八)話電 場工村河 山福後備
(エワカ)略電 通裏町新



各博覽會評定會等賞領

大日本優等清酒

TRADE MARK

TRADE MARK

八尋
仙山

ハセツン

キカンザニ

釀造元

備後國神戶

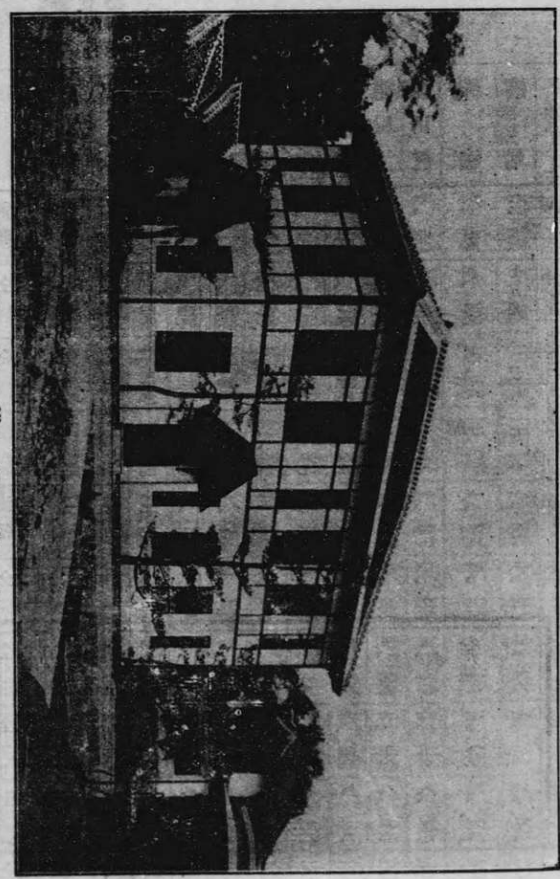
池田酒場

神戸市永山印

一、分五十五尺縮



EP 10



阿 備 輕 鐵 本 社

表刻時線備両

リ														下	
府中町	鶴飼	高木	新市	兩備天王	戸手	近田	驛家	萬能倉	道田	湯田村	神邊	横尾	兩備福山	車番	前番
七、一〇	七、〇六	七、〇三	六、五五	六、五〇	六、四四	六、三八	六、三三	六、二七	六、二一	六、一五	六、〇九	五、五五	五、四〇	一	前番
八、五五	八、五一	八、四七	八、四〇	八、三五	八、二九	八、二三	八、一七	八、一一	八、〇五	七、九九	七、九三	七、八七	七、八一	三	全
一〇、四〇	一〇、三六	一〇、三三	一〇、二五	一〇、二〇	一〇、一四	一〇、〇八	一〇、〇三	九、九七	九、九一	九、八五	九、七九	九、七三	九、六七	五	全
一二、三五	一二、三一	一二、二七	一二、二〇	一二、一五	一二、〇九	一二、〇三	一二、〇三	一一、九七	一一、九一	一一、八五	一一、七九	一一、七三	一一、六七	七	全
一四、一〇	一四、〇六	一四、〇三	一三、九五	一三、九〇	一三、八四	一三、七八	一三、七三	一三、六七	一三、六一	一三、五五	一三、四九	一三、四三	一三、三七	九	後番
一五、五五	一五、五一	一五、四七	一五、四〇	一五、三五	一五、二九	一五、二三	一五、一七	一五、一一	一五、〇五	一四、九九	一四、九三	一四、八七	一四、八一	一一	全
一七、四〇	一七、三六	一七、三三	一七、二五	一七、二〇	一七、一四	一七、〇八	一七、〇三	一六、九七	一六、九一	一六、八五	一六、七九	一六、七三	一六、六七	一三	全
一八、二五	一八、二一	一八、一七	一八、一〇	一八、〇五	一七、九九	一七、九三	一七、八七	一七、八一	一七、七五	一七、六九	一七、六三	一七、五七	一七、五一	一五	全
一九、一〇	一九、〇六	一九、〇三	一八、五五	一八、五〇	一八、四四	一八、三八	一八、三三	一八、二七	一八、二一	一八、一五	一八、〇九	一八、〇三	一七、九七	一七	全
二〇、〇〇	二〇、五六	二〇、五三	二〇、四五	二〇、四〇	二〇、三四	二〇、二八	二〇、二三	二〇、一七	二〇、一一	二〇、〇五	一九、九九	一九、九三	一九、八七	一九	全

表刻時線備両

リ														上	
府中町	鶴飼	高木	新市	兩備天王	戸手	近田	驛家	萬能倉	道田	湯田村	神邊	横尾	兩備福山	車番	前番
五、四〇	五、三六	五、三三	五、二五	五、二〇	五、一四	五、〇八	五、〇三	四、九七	四、九一	四、八五	四、七九	四、七三	四、六七	二	前番
六、三五	六、三一	六、二七	六、二〇	六、一五	六、〇九	六、〇三	五、九七	五、九一	五、八五	五、七九	五、七三	五、六七	五、六一	四	全
七、二〇	七、一六	七、一三	七、〇五	七、〇〇	六、九四	六、八八	六、八三	六、七七	六、七一	六、六五	六、五九	六、五三	六、四七	六	全
八、一〇	八、〇六	八、〇三	七、九五	七、九〇	七、八四	七、七八	七、七三	七、六七	七、六一	七、五五	七、四九	七、四三	七、三七	八	全
九、〇〇	八、五六	八、五三	八、四五	八、四〇	八、三四	八、二八	八、二三	八、一七	八、一一	八、〇五	七、九九	七、九三	七、八七	一〇	後番
一〇、〇〇	九、五六	九、五三	九、四五	九、四〇	九、三四	九、二八	九、二三	九、一七	九、一一	九、〇五	八、九九	八、九三	八、八七	一二	全
一一、〇〇	一〇、五六	一〇、五三	一〇、四五	一〇、四〇	一〇、三四	一〇、二八	一〇、二三	一〇、一七	一〇、一一	一〇、〇五	九、九九	九、九三	九、八七	一四	全
一二、〇〇	一一、五六	一一、五三	一一、四五	一一、四〇	一一、三四	一一、二八	一一、二三	一一、一七	一一、一一	一一、〇五	一〇、九九	一〇、九三	一〇、八七	一六	全
一三、〇〇	一二、五六	一二、五三	一二、四五	一二、四〇	一二、三四	一二、二八	一二、二三	一二、一七	一二、一一	一二、〇五	一一、九九	一一、九三	一一、八七	一八	全
一四、〇〇	一三、五六	一三、五三	一三、四五	一三、四〇	一三、三四	一三、二八	一三、二三	一三、一七	一三、一一	一三、〇五	一二、九九	一二、九三	一二、八七	二〇	全

山陽線福山驛時刻表

[illegible]

旅 客 賃 金 表

[illegible]

本賃金には通行税を含ます
並等通行税壹錢特等參錢小
兒四歳以上十二歳未滿半額
厘位は錢に切上ぐ

自轉車は無賃にて御預り致します
但し別に手荷物
を御預けになる
場合は相當賃金
申受けます

手荷物[㊦]携帶者の注意
並等三十斤迄
特等六十斤迄
無賃にて御預り
致します

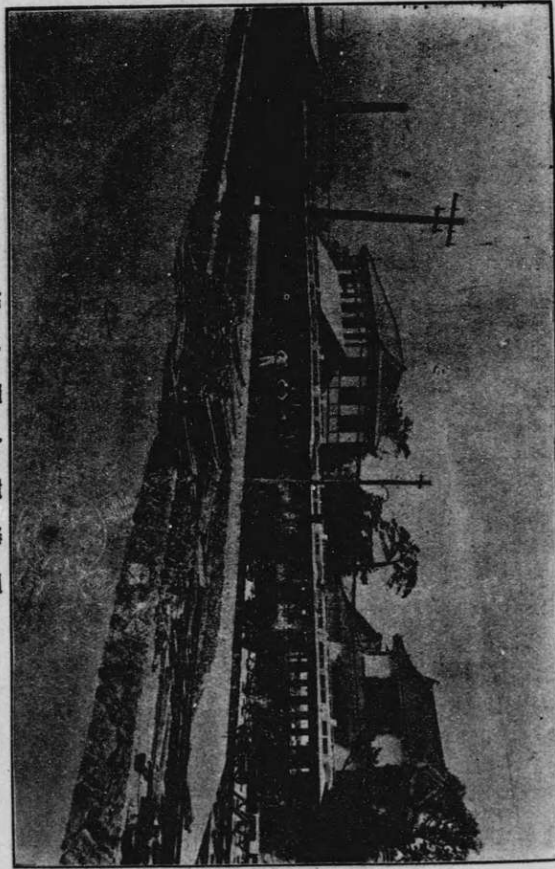
輕軌鐵時刻表

福山驛發

全	全	全	全	全	全	午	全	全	全	全	午
十	八	七	五	四	二	後	十	九	七	六	前
時	時	時	時	時	時	十二	一	時	時	時	五
十	五	三	四	七	二	時	十	三	五	三	時
七	十七	十二	十七	十七	十七	四十七	七	十七	十七	十二	七
分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分

輕軌發

全	全	全	全	全	全	午	全	全	全	全	午
十	八	七	五	四	二	後	十	九	七	六	前
時	時	時	時	時	時	十二	一	時	時	時	五
十	五	二十五	四十	二十	二十	時	三十	五十	二十五	二十五	時
分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分



河備福山驛遠望

標商録登



問
世
テツマサム子
コノキニニ優レル
酒アリヤ

部造醸井藤本山福後備

標商録登

ナ

答

100

シ

!!!



城山福後備



〔城山福〕

福山城

(岡備福山驛西壹丁余)

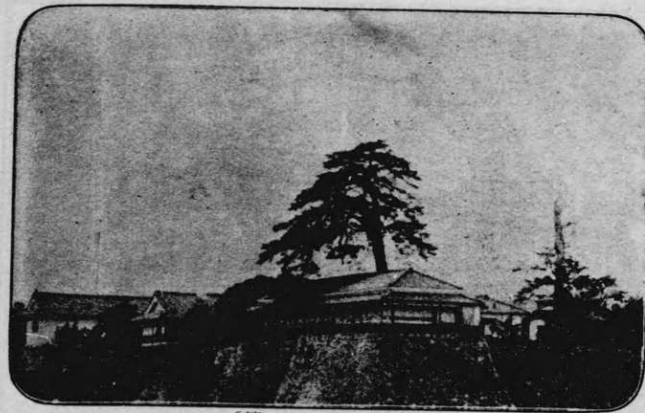
城廓は、福山町の西北に寄りたる市中にあり、水野勝成公の築く處なり
元來福山町は此城下として新設せられたる市街なれば、城を中心として、其東南を市人商賈の住むところ、其西部を舊士族家中の邸宅とせられたるも、現今舊士族家數の殘存せるもの少し
城廓は天守一、櫓九、虎口三、御館一、伏見御殿一、風呂屋一、鐘樓一、以上牙城櫓九、虎口四、橋一、以上羅城櫓三、虎口四、橋四、水門一、御屋鋪一、宅舍五區、以上月城、外羅門二、を外郭とす



純良藥品
有效賣藥
醫療器械
洋酒各種

備後福山胡町
笹七藥館

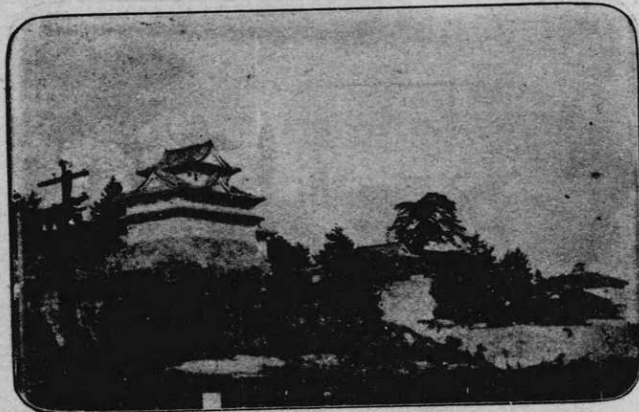
長電話一十番



葦陽館

(福山公園内にあり)

葦陽館は福山公園内にあり現下に於ける福山唯一の公會場たり。
 此建物は福山町有に屬し、公園保存會の管理する處にして年々公入札を以て貸下けを爲す
 館は疊數多く優に二百余人の集會宴席に充當するに足るのみならず、南方の眺望頗る絶佳にして、眼下に福山驛を望み、又市街を隔て、遠く手城の海上白帆点々たるを眺むべく、
 北は亢然として白亞の天主閣と、閣前の老松を看收すべし



伏見櫓

(福山公園内にあり)

豊公聚樂の城を秀次に譲り、其後佐久間河内守、瀧川豊前守、佐藤駿河守、水野象之助、右尾員右衛門等に命じて伏見に築城せしめしに此城慶長五年に倒潰せしかば、水野宗休公、櫓八ヶ所、天主閣、風呂屋、伏見御殿等を豊公より拜領せりと傳へらる
 現今の伏見櫓は此拜領せし櫓中の残れるものゝ一にして、西南隅に聳へ、白亞日に輝きて、天主閣ととも、此城の威容を整へ居るものと云ふべし
 此櫓は現今彌久末氏の借用する所となり、書畫骨董の陳列場となり公衆を悞ましむ



福山公園

(岡備福山驛西壹丁余)

福山城の牙城全体を町有とし、これを公開して以て公園となす、其保存には公園保存會を組織して年々の手入れ、時々の洒掃を勉む

〔圖 山 公 福〕

公園には四時の花芥を植へて其盛装を凝らし、人工の池塘、築山を作りて其風致を整へ、廣き芝原は春秋行樂の好運動場として子女の嬉戯するに任せ、幾多のベンチを据へて遊歩客の足を憩はしむ

福山公園の海業は殊に遠近に其名高く、幾百十株の大海業は春時競ふて花を着け其艶麗なること筆舌に盡しがたし



營業品目

- 美術櫛笄簪 ●高等化粧品
- 諸糸物組紐 ●造花原料
- 學校用筆墨 ●裁縫道具
- 教育的手遊 ●各雜貨類
- 卸小賣共廉價販賣

福山字笠岡町

知 大島昇一店

長電一九一番
振 大阪三三八六番
替 東京二五六七番

崇 崇 崇 崇 崇 崇 崇 崇 崇 崇



〔公 園 藤 の 棚〕

公園藤の棚

(福山公園内にあり)

五月雨の空も名残りなく晴れ、初夏の若葉の緑色濃き朝歩を福山公園に移して、華陽館の前に到れば、其所には白に紫に色も匂へる藤波、棚の下、花の本陰には三四の床几を据へ、茶を賣る老嫗、中々の愛嬌ものにて、公園散歩の好休憩所たるを失はず藤の木の下に瓢を傾る風流韻士に申さん、藤の樹は酒を好む、其恵を樹木に頼つこのころを以て、此樹陰に一杯の献酌を忘るゝなかれされど、藤の樹の下にて酒を酌めは酔はぬと言傳ふ、上戸達は必せよ



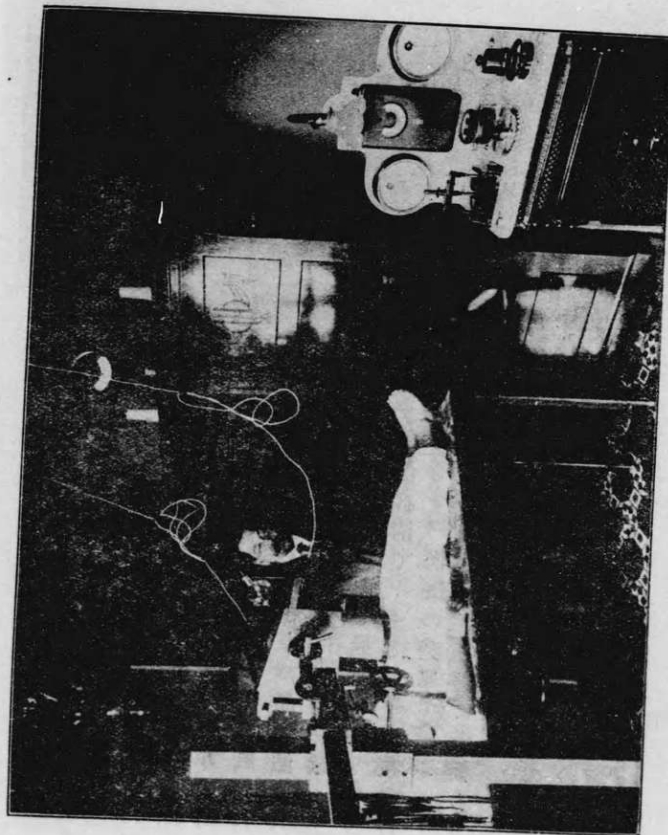
〔芦 田 川 鐵 橋〕

芦田川鐵橋

(岡備福山郡西十丁余)

芦田川は世羅、甲奴二郡の山々に源を發し水流十里芦品を貫流し深安南方の海に注ぐ水清く、川廣くして、兩岸の風光に富み、川魚多く生産す、就中芦品の鮎は其名遠近に聞こえ、夏時膳上に清香を放つ十里の川流は灣曲、屈折、山を遶り、原を過ぎ、白砂清く、まことに備後を淨くするのみならず、灌漑の利舉て數ふべからず山陽線福山以西十丁の處に鐵橋あり、此川流に架せらる烟を吐ける長蛇の轟々と音たて、渡れる時、其風景亦頗る見るべきものあり

立私 金尾病院 エックス光線科診療室
同 病院 院長 診察室



崇 崇 崇 崇 崇 崇 崇 崇

營業品目

- 美術櫛笄簪 ●高等化粧品
- 諸系物組紐 ●造花原料
- 學校用筆墨 ●裁縫道具
- 教育の手遊 ●各雜貨類
- 卸小賣共 廉價販賣

福山字笠岡町

知 大島昇一店

長電一九一番
振 大阪堂一三八六番
替 東京堂二五六七番

崇 崇 崇 崇 崇 崇 崇 崇



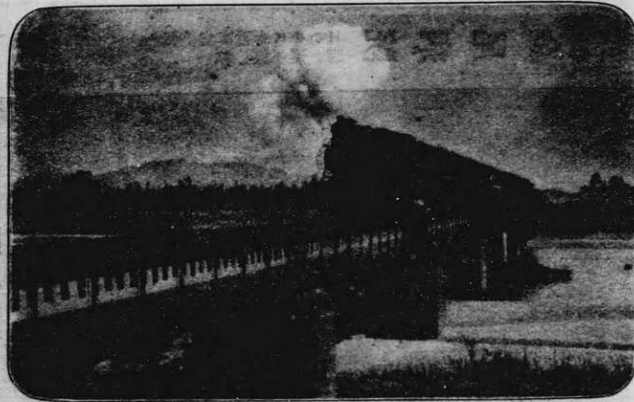


〔公 園 藤 の 棚〕

福 山 公 園 藤 の 棚

(福山公園内にあり)

五月雨の空も名残りなく晴れ、初夏の若葉の緑色濃き朝
 歩を福山公園に移して、葦陽館の前に到れば、其所には白に紫に色も匂へる藤波、棚に下、花の木陰には三四の床几を据へ、茶を賣る老嫗、中々の愛嬌ものにて、公園散歩の好休憩所たるを失はず
 藤の木の下に、瓢を傾る風流韻士に申さん、藤の樹は酒を好む、其恵を樹木に頼つこのころを以て、此樹陰に一杯の献酌を忘るゝなかれ
 されど、藤の樹の下にて酒を酌めは酔はぬと言傳ふ、上戸達は心せよ



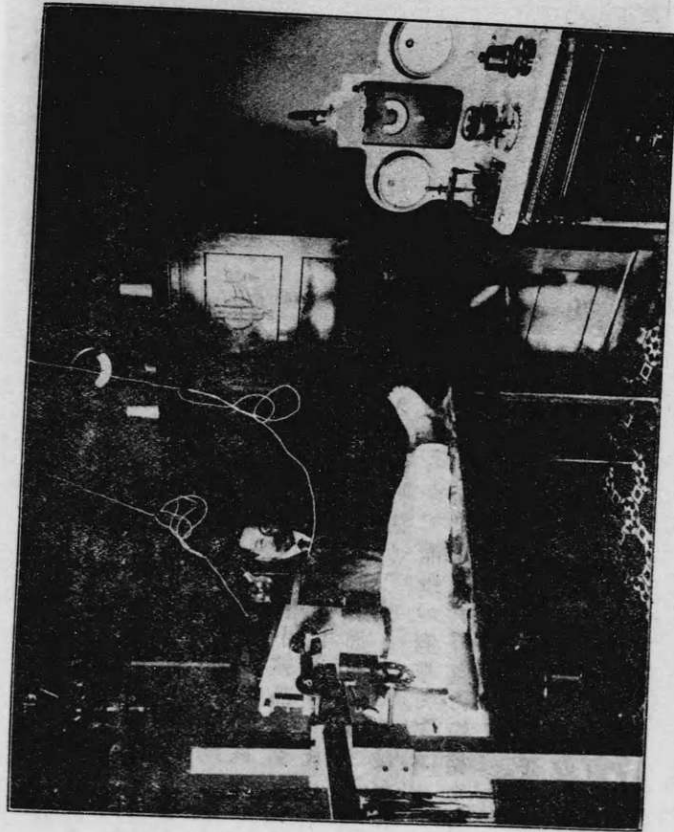
〔芦 田 川 鐵 橋〕

芦 田 川 鐵 橋

(岡備福山郡四十丁余)

芦田川は世羅、甲奴二郡の山々に源を發し水流十里芦品を貫流し深安南方の海に注ぐ水清く、川廣くして、兩岸の風光に富み、川魚多く生産す、就中芦品の鮎は其名遠近に聞え、夏時膳止に清香を放つ
 十里の川流は灣曲、屈折、山を遶り、原を過ぎ、白砂清く、まことに備後を淨くするのみならず、灌漑の利舉て數ふべからず
 山陽線福山以西十丁の處に鐵橋あり、此川流に架せらる
 烟を吐ける長蛇の轟々と音たてゝ、渡れる時、其風景亦頗る見るべきものあり

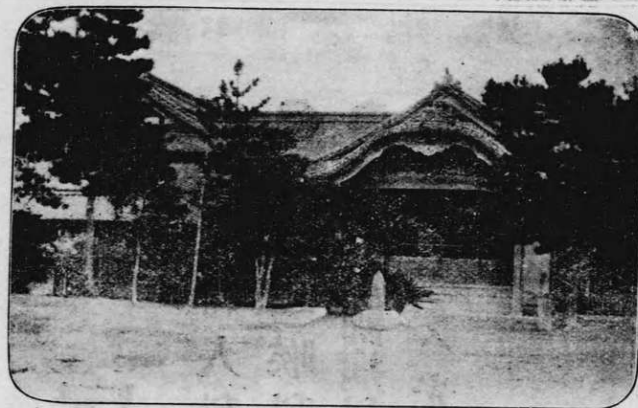
私立金尾病院
エックス光線科診療室
 同病院院長



福山
 私立 金尾病院

- 産科婦人科 醫學士 金尾 惟敏
- 耳鼻咽喉科 醫學士 池尻 政吉
- 外科花柳病科 醫學士 山縣 直吉
- エックス光線科 院長

福山府中町角
 電話一四番
 電話一八八番



〔縣立福山中學校〕

福山中學校

（兩備福山驛より西南拾貳丁余）

福山町霞町に建設せられ、五百の青年は常に咄語の聲を絶たず
 此校もとは誠之舎と稱し舊藩公阿部氏、曾て茲に青年子弟を薰陶せられたるごころ、縣立中學校を此地に設置するに當り、此誠之校舎を以て之に充當し、今日に及べるなり
 敢て校舎に輪換の美なしと雖ども、素樸の建物に質實の色を見はし、此校に五十餘年の久しき間教鞭を採り、三千の子弟を薰育せられ、慈母の如く、慈父の如くなりし、門田杉東先生あり、以て誇りとするに足る



〔深安郡津村山〕

蔀山

（兩備福山驛より東方拾五丁余）

地は深津村の内にあり、山は岩山の枝南に流れいでたる平岡の一處を指していふ、即ち蛇山中の一邱なり、或は岩山、即ち蔀山なりともいひ、風景頗る好く、此山に稻荷神社を祠る、

此山に登れば西に福山の市街を一望の裡に集むべし

散木集 俊頼

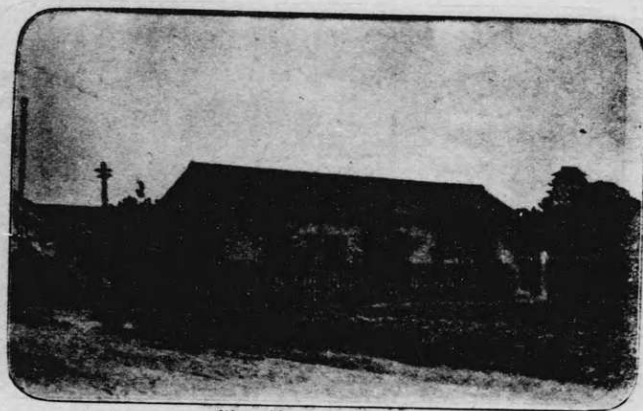
蔀山かはろせとほとゝきす

聲はかくれぬものにそありける

後堀川百首 常陸

蔀山おろすあらしのはけしきに

柴のどほそもあけぬころかな



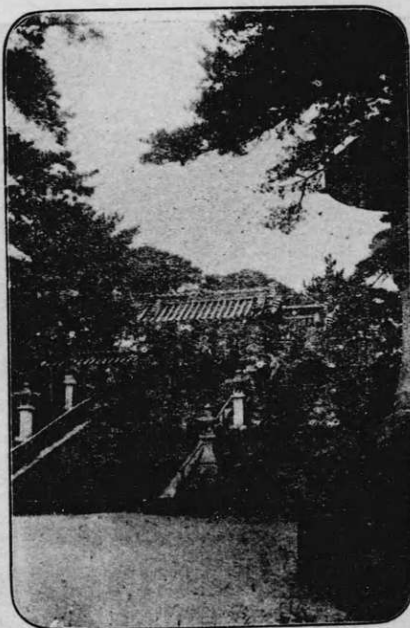
縣立工業試驗場

(岡備福山縣西參丁余)

今より十餘年以前時の縣知事宗像政氏、縣立工業試驗場を建設せんと發案し、縣會之可決通過せしに、其候補地に就て二三の競争者を生じたるも、縣の工業は其基礎を試我備後の地に置くものなれば、縣知事は斷々乎として衆説を排しこれを我福山の地に定められたり
爾來幾歲月、織物其他重要な生産品に就きて貢獻する處多く、縣民のこれを歡迎せし所以に過ぎり
西町中の町に質素なる黒塀圍ひ、煙突の烟りは日々我工業界のために絶間なし

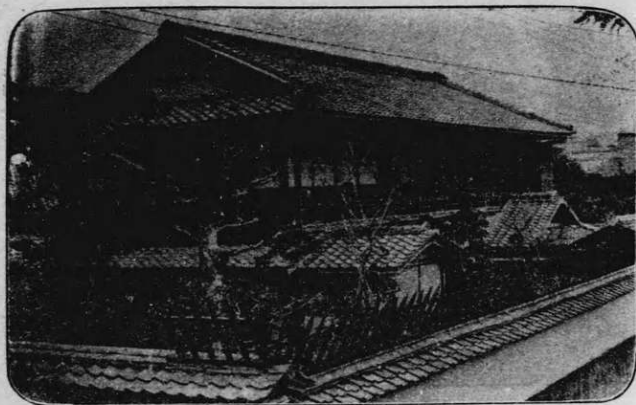
阿部神社

(岡備福山縣西北三丁余)



〔社 神 部 阿〕

舊藩主阿部家代々の靈を鎮め祭れるもの、公園の北山續きの好地にあり、朱門は北方道路に沿ひて嚴めしく境内汎く樹木多くして四時とも緑りの色を絶たず
今は縣社として崇められ、諸人の信仰まことに淺からず
毎年五月十八日十九日には祭典を執行せられ、常日には各學校の學生其他參拜するもの多く、奉納能樂ありて頗る賑ふ
境内東北の山は道路に沿ふて屹立し、老松、古杉、枝參差として、秋色殊に愛すべきものあり



〔松の家旅館〕

備後國福山東町

松の家旅館

長電話三十九番

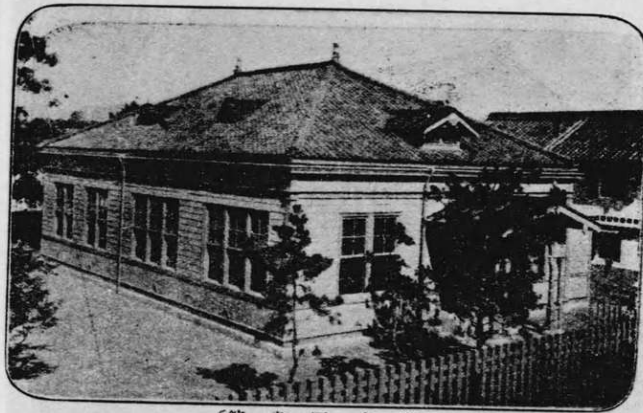
福山驛前

松の家支店

電話二四五番



〔松の家旅館庭園の一部〕



義倉圖書館

(岡備福山驛東凡四丁余)

福山東町にあり、有名なる義倉社の建設に係り、全社が地方教育の爲め特志を以て明治四十二年工を起し全四十三年八月一日開館せしもの、敷地三百七十九坪、建物本館五十四坪、書庫拾五坪、議員評議員室五坪、監守人住宅十四坪、圖書消毒室其他五坪余、物置三坪、其建築費金壹萬二千圓藏する處の圖書約壹万七千餘冊なり
殊に本館の二階は公共の集會には無償の貸與を爲し、年々の維持費又義倉財團の義捐する處なり、開館は日曜終日、他は午後二時より九時迄とせり

〔館書圖倉義〕



觀音寺

(岡備福山驛北三丁余)

山号を南壽山と号し、眞言宗の寺院として
は巨利と言ふべし
同末寺は吉津にあり
同寺は宥表法印これが開基たり
同寺は素と草戸よりこれを移し來りたる旨
縁起には見ゆるも、深津村長尾寺の縁起に
よれば彼處より移ることも言へり、何れか眞
なりや
同寺今は東田良道師住職として、法燈を繼
ぎ、歸依參佛の衆生多く、佛門中々に繁昌
せり

〔寺音觀〕

株式會社 福

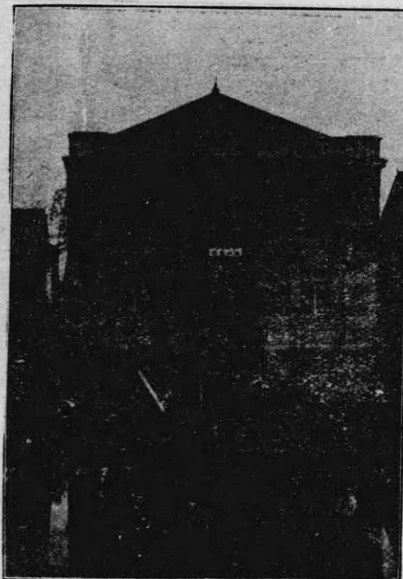
山 銀 行

(岡備福山驛南三丁金)

同行は明治廿九年創立以來幾多の變遷を経て今日に至る今や根底愈堅く行運日に隆盛なり明治四十四年同町船町に營業所を新築し翌四十五年五拾万

圓に増資して倍々内容の充を圖り唯一の土着銀實行として尤も地方の同情厚く内外相應して好箇の金融機關たり

同行は一般業務の外日本勸業銀行廣島農工銀行代理店廣島支金庫深安郡金庫等の事務を取扱へり而して當今の經營者は事務取締役石井貞之介 取締役河相三郎 大平要太郎 五十川源吉 櫻田只次郎 監査

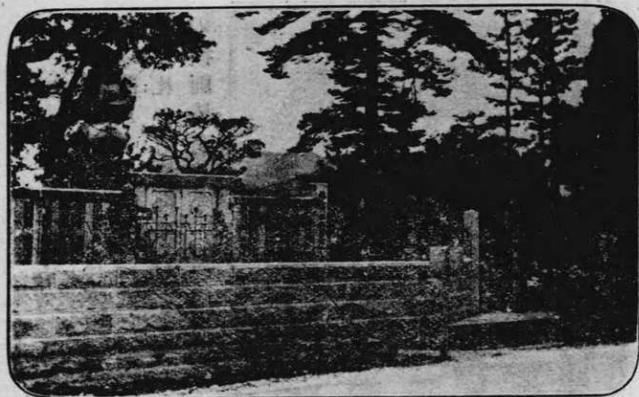


〔行 銀 山 福〕

役村上五郎吉 藤野玖三 淺利久八 支配人 島山一郎の諸氏なり尙ほ石井英太郎 高野勇五郎の両氏相談役として之を補佐し穩健なる發展を期しつゝあり

水野公墳墓

(岡備福山驛東三丁金)



〔墓 墳 公 野 水〕

山陽線大門驛より下り列車にて福山驛に着せんとする一瞬前、驛東三丁位の處に北側に大なる五輪の塔婆を見るなるべし、これ水野公の墳墓にして、以前は手も入れず、霧不斷の香を焚き、月常住の燈を掲ぐるに任せたりしもの、近頃世人の注意を惹き大に其面目を改めたり
德勝院殿前四品日州太守參康宗休大居士とは水野日州の墓碑銘、墓は息勝俊氏の建つる處慶安四年三月十五日の成就、殉死の家臣安田孫之進の碑あり、其他水野家歴代及家族の墳墓多し

合資加島銀行

(岡備福山驛南東二丁余)

合資會社加島銀行は大阪市廣岡一家が無責任經營に係り全家は殆ど三年以前より加島屋と稱して徳川幕府及諸侯の會計御用を勤め其間古金銀並に金札の引換錢相場の元締等金融事業に貢獻せしと鬱なからさりしが維新の後兩替商となり其後銀行業を營み今日に至れり現在資本金百萬圓積立金百八萬圓諸預り金貳千百余萬圓を有せり



〔行銀島加〕

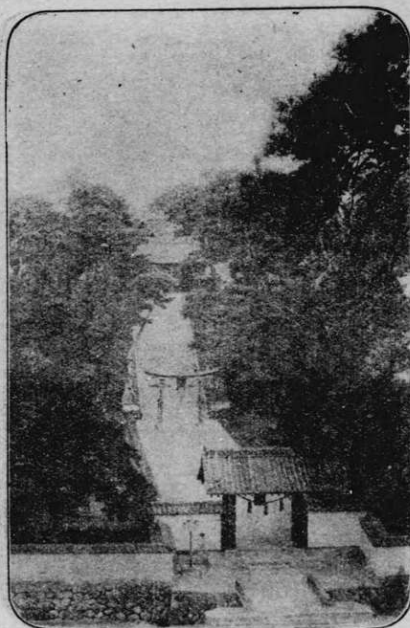
本支店所在地左の如し

本店 大阪市西區土佐堀一丁目
 南支店 大阪府松島支店
 道支店 大阪府松島支店
 京支店 大阪府松島支店
 福支店 大阪府松島支店
 岡支店 大阪府松島支店
 山支店 大阪府松島支店
 木支店 大阪府松島支店
 茨支店 大阪府松島支店
 尼支店 大阪府松島支店
 上圖ハ福山支店營業所ニシテ並岡町ニ在リ三年前ノ新築ニ係ルモノナリ

八幡社

八幡社

(岡備福山驛より北方二丁余)



〔社神幡八〕

極の木谷に移したるものにて、亦こゝに移されたり、兩社ともに天和三年癸亥の年成就せり、西は野上、多治米及舊藩臣の生土神、東は町家の氏神たりしも、今は全市街を東西に兩分し各々氏神として之を祭れり

兩社あり西にあるを若宮八幡宮と稱す、此社も野上村にありしを、杉原盛重今の天神社へ遷移し、宗休候古宮に移し、勝慶候此處に移さる、東にあるを延廣八幡宮と稱す、此社元々惣堂八幡と稱せしを寛文の頃水野家の家人入騷動せしことあり、其響を忌みて今の名とす、此社亦杉原が野上より

最善寺

(岡備福山驛より東南凡七丁)



〔寺 善 最〕

清光院榮光より此寺に寄附せられたりと由緒書に見ゆ、古法眼なれば元信のことなり、永信とは何人か、恐らくは元信の誤りなるべし

山号を光耀山と稱す

一向宗にして東本願寺の

末寺寺町にあり

此寺素と西派なりしも、

東派に變更したるものな

り、開基は師の從者蒔

屋なるもの沼隈郡山南よ

り來りて創造すといふ

古法眼永信といふものゝ

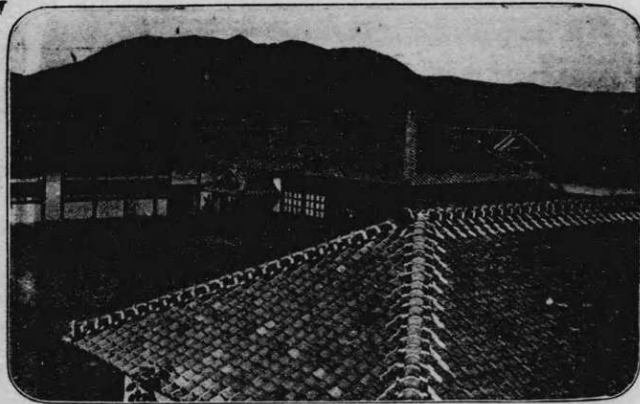
繪きし、聖徳太子の繪傳

一卷は水野家大和郡山よ

り持來られしものにて、

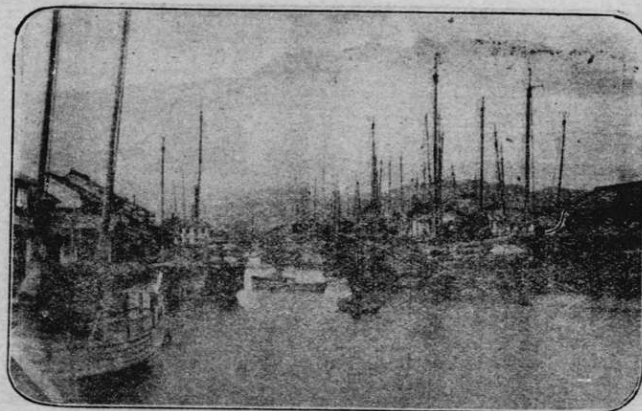
私立 盈進商業學校

(岡備福山驛より東七丁余)



〔校 學 業 商 進 盈 山 福〕

龍陽藤井曹太郎氏は曾て深津校々長として
良名あり、由來教育には非常に熱心の人な
るが、夙に高等小學校を卒業せし子弟のた
め、尙其實務を教授し以て社會に有用たる
の材と爲さんと欲し、私立盈進商業實務學
校を東町西の丁に置く、爾來幾多の難局に
際會し、勇往直進其理想を現實にす、徳孤
ならずして修に多數有志の其舉を賛するあ
り、加之世運の進歩は氏の實行を可とし、
多くの有用なる卒業生を出すに至つて、益
々其効果を認識せられ、現今校舎は東町寺
町にあり、多くの在校生を有す



福山港

福山入江

(福山福備山驛より東南五丁余)

城東の地を堀り割り、手城の海水を引きて舟楫の便を通せしは水野公の賜にして、好し干潮時の不便はあるとも、満潮に海波漫々として、櫓聲寛かに聞ゆるときは、此公の恩遺を思はざるべからず
加之江上波穩かなる處より遠く福山城を望めば、青松影清きはるる天主の高閣は雲に聳へて其景色甚た佳なり
入江々岸に五穀大明神あり、寶曆七年の創立にして、其名遠近に高く、毎年三月、九月の毎度十三日より十五日迄祭禮あり、遠路來り詣るもの多く、植木市盛んなり

福備福山驛

(本線起点)



福山福備間の工事

山陽本線東一番の踏切を北に超ゆれば、其所には壕を埋めたる新らし大なる停車場のあるを見るなるべし
これ福備福山驛にして、驛の廣さは山陽線福山驛よりも汎く、流石に輕鐵と言いがら仕立驛だけあつて、總ての設備行届きたるを知る
驛西方を望めば、偉大なる本社建物と其左り手に白亜の天主閣を見る
驛内には數多く新らしく美しきボギー式の客車列なり居りて、其開通を待てるものゝ如し
本圖は福備福山驛の工事中を撮影したるものに係れり



〔福山歩兵第十四聯隊營門〕

第四聯隊 兵 營

(福山驛より南方十七丁余)

福山管區は元五師團管下なりしも今は十七師團の管下に屬し、四十一聯隊の健兒を收容す
 明治四十一年中町民の請願希望に依りて四十一聯隊を廣島市より茲に移轉さる
 營所は野上にあり、聯隊區司令部、憲兵分屯所、衛戍病院等これに附屬す
 二千の健兒は其休養の日に當りて市の内外を遊歩し、市の繁榮大に増進せり
 幾十棟の營舎は草田川東の平野に建聯ねられ、福山城の白亜と相對して、福山の地に一名所を加へたりと言ふべし



〔福山陽線驛〕

山陽線福山驛

(福山驛南隣)

山陽線布設當時に方りては地方に議論の紛々たるものあり、進歩派は將來發展の爲めに市の樞要の地に停車場を置き、列車を市に貫通せしめんと欲し、頑迷派は只々危險を言ひ立て総てを市外遠くに置かしめんと欲し、茲に兩派の衝突を起したりしも、進歩派終に勝を制して現今の地に福山驛を新設せり、是れ今日我地發展の大原因を爲せしなり
 地は素と城壕を埋めたる新開の箇所にして實に市の中央にあり
 福山城の天主閣は其北方に高く聳へ輕鐵の停車場は其西半町の處に、兩備福山驛は正に其北隣にあり

大藏省醸造試験所内醸造協主會
第四回全國清酒品評會
優等賞受領

防腐劑不入

純良清酒



福山停車場前

販賣元

栗原定助商店

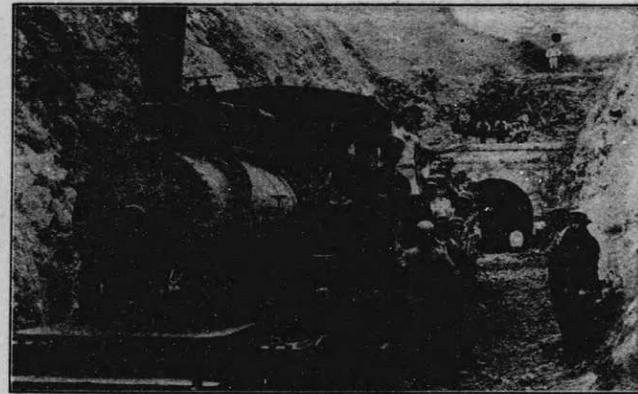
電話 長百六番
五百六番



醸造元

賀茂郡
西條町

島博三

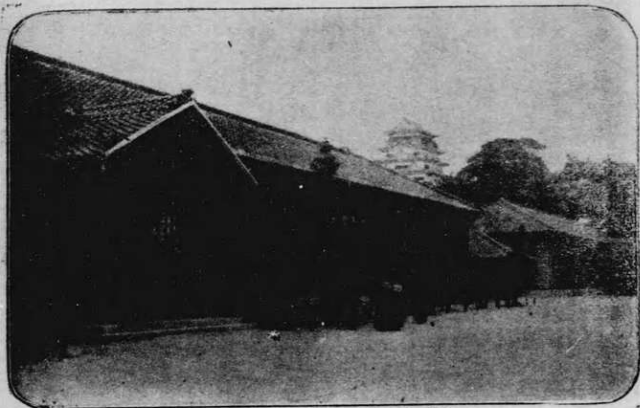


〔ルチント津長奈備両の中工事〕

奈良津墜道

(兩備福山横尾兩驛間にあり)

奈良津墜道は本線福山、横尾間にあり福山を離れ東北溝梁に沿ふて駛れば、四十分の勾配となる、これ墜道に到る第一警鐘なりとす
幾曲りの山脈を遡りて、緑深き間を奔すれば、遙かに石を疊める丸形の墜道を望見すべし、延長四百六十二尺
昨大正二年十一月に工を起し、本年六月廿七日全部出来せり
工事は井上組の請負ひにて、日夜工を督し、堅岩を碎き、苦心慘憺以て今日の如き成功を見たるなり
憶ふに本線中此墜道の工事を以て第一の難工事となせしなり



〔校學女等高山福立縣〕

福山町に女子教育の必要を説くや急なるものあり、明治四十二年中町立としてこれを新設す、郡内來り習ふもの多く、忽ちに於て其設備の不足を感ず、茲において有志、殊に大久保末男氏大に盡力するあり、大正二年度に於て特に廣島縣立となり、廣島縣經濟に移され、諸種の設備大に進み、又近く一大寄宿舎を設置せられんとす
校長は表甚六氏にして、氏は熱烈純正なる其校長、曾て町立時代より此校に長として功あり、以て今日に至れり、其間幾多の進歩を校務の上に顯はしたるは言ふまでもなし

福山立 高等女學校

(公園の西隣にあり)

最上醬油

商標 吉

釀造元

廣島縣福山町

河相三郎

日本生命保險株式會社

日本火災保險株式會社

代理店

福山町水田印

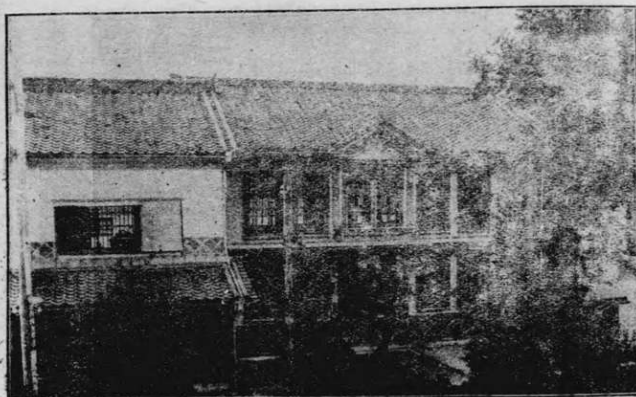


〔神邊大明神御池〕

神邊大明神

(神邊町東五丁余)

延喜式神明帳に所謂天別豐玉姬神社にして、紅葉山にあり、祭神三座、豐玉姬命、素盞雄命、事代主命を祭る、川北川南両村の生土神なり
和論語備後國天別豐玉姬大明神々託に云ふ益人よあめよりなせるわさをつとめ地よりなせるわさをつとめて高きをうやまひ下をみちひき直き心をそたてゝみおやをまつれをのつから神のいさをなめん云々
水野家の時代には年々神樂料を獻せられ、又代參を立てられて、其信仰淺からざりしといふ



〔西備織物同業組合事務所〕

西備織物同業組合沿革書

(廣島縣青品郡新市町電話十七番)

本郡は往古織物の創始せられし事蹟あり即ち服部村なる名稱は蓋し服部縣の古地に於て服部職を置き貢物とせしに因したるものならん文久年間迄は無地織及本綿織等を僅に産出せしものなるに其以來有磨村字下有地富田久三郎氏本綿織の製造方法を案出し其利益多きを悟り地方機業家に於ても之れを習得して製造するに至れり一面本組合を組織し織物の改良發達を奨励したる結果逐年産額の増加を來し現時紺紵を初め織物製産額殆んど貳百萬反に達するの盛況を來し之れが織物販賣店は全國著名の市場にあ

櫻山神社

(岡備新市縣北凡八丁)



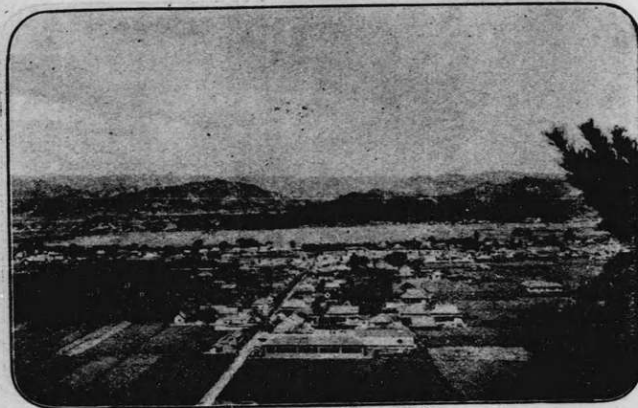
〔社 神 山 櫻〕

、公適ま河内にあり、楠公と俱に行宮に伺候して大命を拜し、馳せて備後に歸り義旗を擧げんとす、會ま笠置陥り楠公亦死すと聞き、士卒疑懼潰散す、公大に怒り曰く大事既に去れりと、遂に城北の吉備津祠に入り妻子を刺殺し、火を放ちて節に殉じたるもの、其遺勳炳乎として滅せず

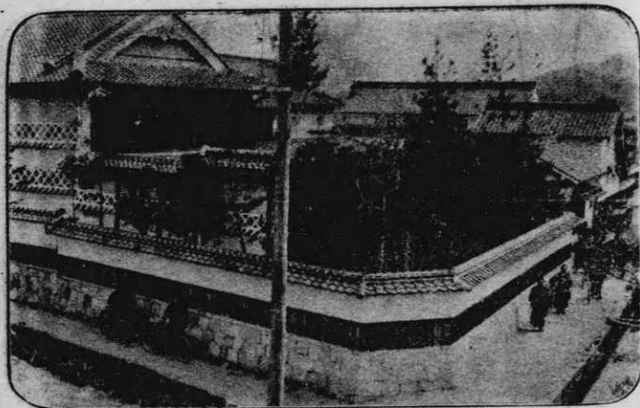
建武の昔し精忠義烈の士、櫻山四郎公の芳魂を千載の後に祭れるもの、神社は芦品郡網引村宇宮内にあり
本圖掲ぐる處は公の木像にして現今全郡全村中興寺に納められたる者なり
公本姓は宮氏、名元正櫻山四郎と稱し、後ち薙髮して茲俊と號す、後醍醐帝の笠置に潛幸し給ふや

神邊

(神邊驛所在地)



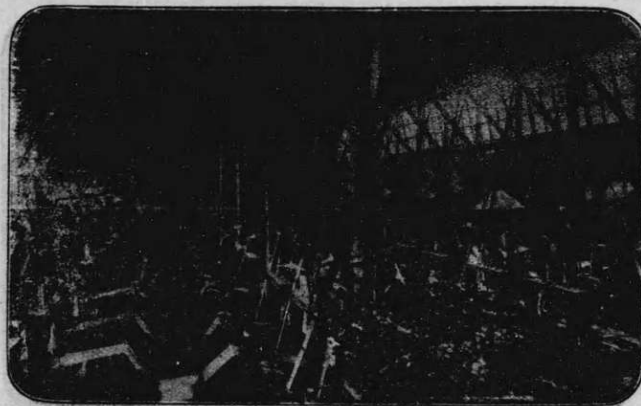
〔街 市 邊 神〕
福山より東北一里半、水野俣入部、福島家より引繼の引渡帳には川南、川北一村にて麓村と云ふ、西邊に二十軒家と云所あり、もと人家ありて一村落なりし、村中に高屋川流れ其南を川南、北を川北と云ふ云々、舊藩の頃西國大名參勤の驛路として、驛用を南北各十五日に交代し、上十五日は川北云ふ、本陣ありし處なり
今や機業地として名高く、其產出額亦頗る見るべきものあり、日を追ひ月を超へて隆盛に趣きつゝあり



〔社 會 名 合 重 吉〕

販路を全國に布及し末廣縞と云へば誰知らぬ者もなき迄に行き渡れる本品の製造元は新たに開通せる兩備輕便鐵道の主要驛たる神邊停車場より近距離にある吉重合名會社にして列車中から善く見ゆるなり此の寫眞と對照すれば誰にも善く分る

商標 末廣縞本舗



〔場 工 織 製 縞 廣 末〕

大尺正確、染色堅牢、品質均一、意匠新、を以て需用家の賞讃に浴し年々歳々産額増進しつゝある末廣縞は如此最新精良なる重政式動力織機を使用し一定の工場内に於て製織せられ染色其他の準備工程に到る迄専門技士の嚴密なる監督の下に作業せられつゝあるなり

商標 末廣縞製織實況



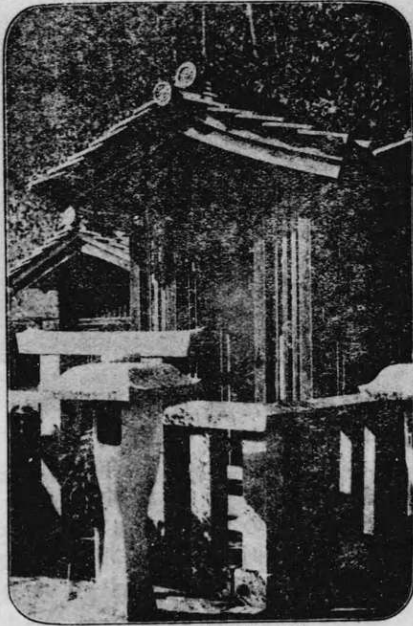
茶山寮

(岡備神邊驛北三丁余)

菅波氏、晋帥、茶山と號す、藩儒たりしこ
 とは別項に記せり
 寮は先生か子弟を親しく薫陶せられ、一國
 其德風を慕ひたる源泉の發するところ、又
 勤王愛國の士を會して、王政維新の偉業を
 間接に助けられたる榮譽ある屋舎にして、
 今尙は其末葉たる菅晋賢氏の手によつて保
 存せらるゝは誠に珍とするに足る
 寮に朱欄、青奇の飾りなきも、綠樹清風は
 昔を語るが如く、足一度び其裡に入れば、
 何となく敬愛の氣肌に満ちて、自ら精神の
 一爽を覺ゆしむ。

茶山先生碑

(岡備神邊驛北東三丁余)



〔碑生先山茶〕

先生姓菅波氏、名普帥、
 字禮郷、通孫太中茶山と
 号す、備後神邊の人、其
 先は畠山氏寛延元年戊辰
 二月二日生る、幼字嘉太
 郎と稱し元服して百助と
 改む、先生幼にして學を
 好み、詩書に通じ既に池
 中のものにあらず、十九
 の年京師に遊び後ち那波
 魯堂先生に就き濂洛の學
 を受く、佐々木良齋、中
 山子幹其他當時有名の碩儒と交る、後ち阿部氏に召され賓客を以て遇せら
 る、先生著書頗る多く就中福山地誌、黄葉夕陽村舍詩集等有名なるもの、
 山陽南海諸州の人皆先生に就て學ぶ、頼襄先生亦門下生たりしなり。

新市町

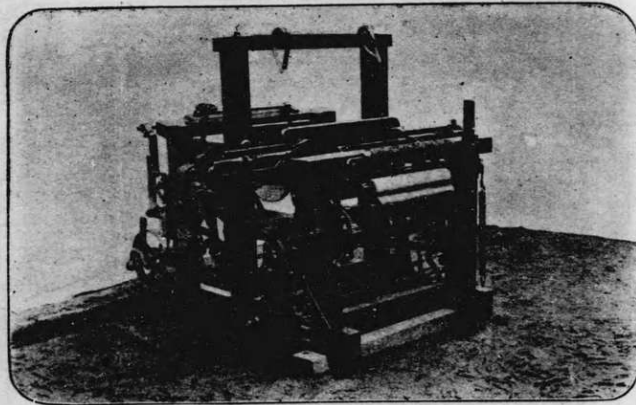
(岡備新市天王驛西二丁余)



〔新市町全景〕

福山より三里十二丁戌の方にあり、東西七丁、南北十二丁、素宮内村に屬せしもの慶長年中に別れたり、以前は新市村と稱し村制を施行せしもの、府中、福山間の要路に當り、物貨集散の便を得て、漸次股脈に赴くにより、町制を施き、人口の増加を來たし昔日の面目を改め、人家櫛比して將來有望の地區となれり
生産の主要なるものは織物にして、芦品に於ける織物の牛耳を握り、其産出額年々増加しつゝあり、金融機關には芦品銀行、備後銀行出張所等あり

最新特許重政式織機



西備商會

會社名

- 一回轉ノ大不同ニ頓着無キ織機
- 一分時間二百五十回轉以上ニテ細糸ノ縞木綿ヲ平易ニ織リツ、アル織機
- 一製産力ニ於テ新記録ヲ作レル織機
- 一全裝置ガ實用家ノ理想ニ一致セル織機
- 一最近ニ於テ更ラニ三個ノ特許ヲ得益々本領ヲ發揮セル織機
- 一斯ノ如クニシテ機業家ノ熱狂的讃辭ニ浴シツ、アル重政式織機ハ岡備輕鐵主要驛新市町合名會社西備商會ガ全力ヲ舉ゲ専門ニ製作シツ、アリ

領受牌賞金等會評品會覽博各於

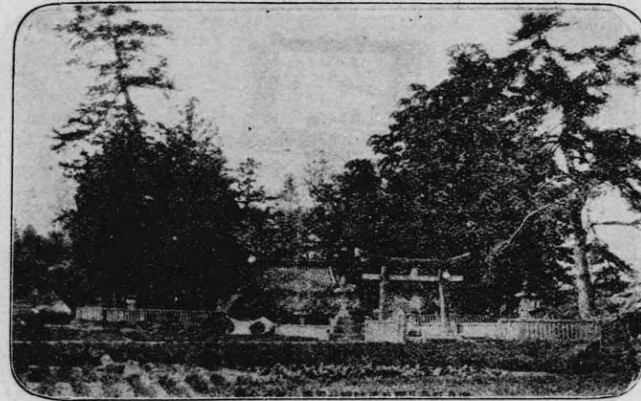
酒清良改本日大



元造釀

町手戸郡品芦縣島廣

場釀醇原栗

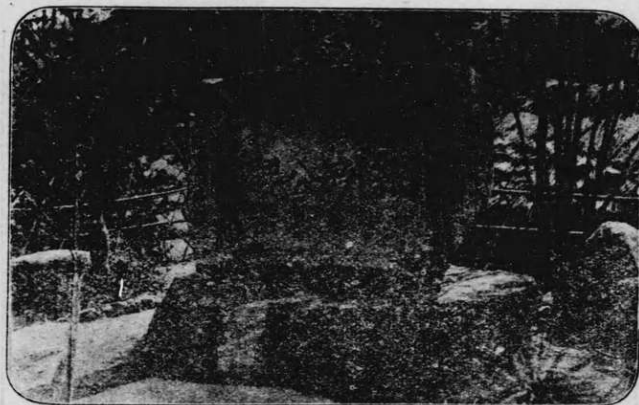


〔王 天 頭 牛〕

牛頭天王

(岡備新市天王驛西半丁余)

江熊牛頭天王と稱す、江熊疫隅に通ず、一説に祭神は素盞雄命なりといふ、定かならず、疫隅の神は新沼名前神社に祠る處より斯くは唱ふるものか
此社毎年六月十四日より十五日まで祭禮にて、新市町はづれに御旅所あり、神輿行、還行ともに老幼扇笠など持ちて躍り歩行きて供奉す、其形休笑ふべし、偕祭禮のとき神輿を川原に昇き持て行き興丁東西に別れて川原の石を礫として打あひ傷損するもの多かりしも、現今取締り嚴重となりて此事跡を絶ちしなり



〔碑 公 引 網〕

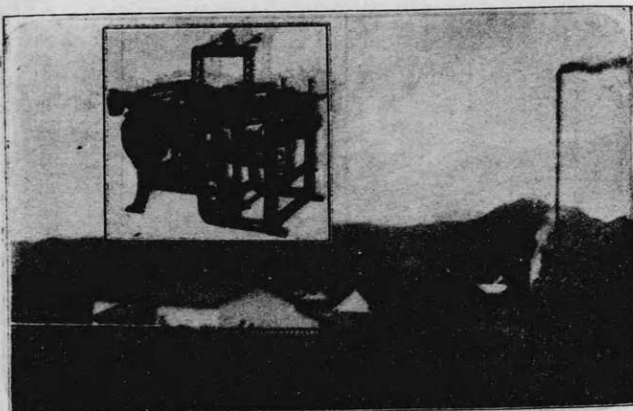
網引公碑

(岡備新市驛北東八丁余)

神護慶雲二年壬辰の歲、備後國鞆郡網引公金村年八歳にして父を喪ふ、哀毀骨立す、尋で母を喪ふ追遠益々深し、朝廷其至孝を嘉し給ひ爵二級を賜ひ、其田租を復し以て其身を終る云々、事績日本紀に見ゆ云ふ

其後千七十歳、天保八年丁酉の夏現今の地に碑を建つ蓋し公の住所たりし考証の動かすべからざるものを得たるなり

公の至孝、郷里其徳に化し、天孝感によつて其所に奇泉、名酒溪ありと傳ふ、孝徳の偉大なる千載の後も餘光ありといふべし。



〔所 鐵 鑄 田 高〕

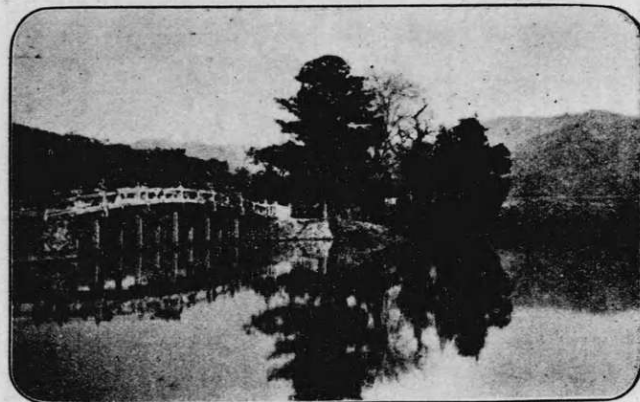
廣島縣芦品郡新市町

高田鑄鐵所

振替貯金口座 大阪四九八五番
東京七八四四番
電話番號 十番

目 概 品 製

鋸釜農具類 ○高田式特許製鋸釜
○T.N. 式力織機 並ニ 附屬機
織機ハ最新式ニシテ平織横
織等全部鐵製ナレハ堅牢實
用的優ニ三百回轉ヲ出スモ
安全ナリ



神池

(二ノ宮 北八丁余)

神池は宮内村にあり、吉備津神社附屬の御池にして、社東壹丁余に位し、周圍三丁二十六間、虎睡山の縁り倒しまに水に映り、春は桃櫻の花雪と散りて浮び、夏は綾羅の村袂に涼風滿ちて池の面に小波動き、秋は塘樹紅にして二月の花よりも見事に、冬は神森に六花咲きて俗腸を洗ふに足る、まことに四時を通じたる好景色の場所といふべきなり
九月九日神事流鏑馬のときに射人のもの此池の周圍を騎馬にて馳せめぐり、鳥居のところに射鏢の式を終る

吉備津彦神社

(備前一ノ宮 北八丁余)

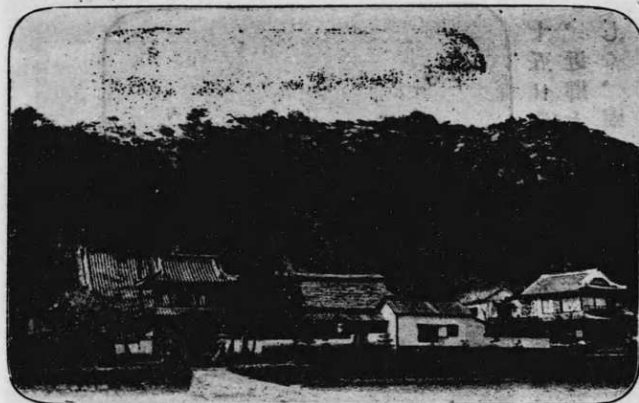


〔吉備津彦神社〕

吉備津彦の祭禮は宮内の市と稱し、諸國遠近より來り詣るもの非常に多し、大に賑はひ、演劇見世物、さては串柿、飯面など、其他の出し店夥し、國中屈指の大祭なり

祭神は吉備津彦命、孝靈天皇、吉備武彦命父子諸神なり
年中行事は正月朔日より三日まで御内陣にて中臣板、四月御錫の口明、午王加持、新始、三寶御齋禱、七日弓始、二月一日より三月三日迄兒舞執行、其他多けれども今は略されたり

毎年舊十月十四日より二



本住寺

(岡備新市驛北壹丁余)

新市町にあり法華宗にして、山号を姥山と云ひ、院号を本隆院といふ、京都本能寺、攝州本興寺の末寺なり、善住院日慶上人天正年中に創造せりと六郡志にあり、此寺昔時芦品郡相方村にありて今の観音堂は其舊址なりと傳ふ、山号を姥山といふは寺後の龜壽山中に姥ヶ窪といふ地名あり、此處は櫻山慈俊氏の叔母の住みしによりて此名ありと、當代は十六世日乾上人なり

狂歌あり

櫻山姥かそたてし雅兒櫻

ねんくころくおわすれすに咲く



南宮大明神

(岡備府中驛より南約三十丁)

芦品郡栗生村字栗柄にあり、地を茶臼山と稱し伊弉諾伊弉冊尊、金山彦尊を鎮め祭る、相殿の祭神は皇靈天皇
本社の創立は平城天皇の御宇、大同二年乙亥の歲にして、草戸の明王院と同年の創造なり
社殿の構造は一ノ宮吉備津神社と同一くして、附屬建物多し
由緒は曾て朝日新聞紙上に記載せられたるを以て之を畧す



扇橋

(岡備府中町驛より西南五丁余)

〔橋 扇 郡 品 芦〕
 芦品郡栗生村字栗柄にあり
 芦田川の流は滔々として廣く、屈曲灣折せ
 る碧水の上に架せられ、其延長約百二十余
 間あり
 南岸一帯の山々は緑樹鬱蒼として、翠濃く
 、近く釋迦院の伽藍を臨み、遠く府中の市
 街を望む、
 橋下の清流には鮎魚多く集り、一たび網を
 投すれば潑刺たる香魚其裡にあり、網を押
 へ手漁するに水淺く、冷にして夏時の好遊
 場所たるを失はず、雅人一度び遊べば終に
 忘るゝ能はざる好遊地たり。



府中町

(岡備輕鐵終点)

〔街 市 町 中 府〕
 福山より西北五里にあり、元と府中市村と
 稱せしもの今は府中町と稱す
 此地は神石、双三、甲奴、世羅の諸郡と福
 山とを連絡すべき好箇の聯鎖にして、實に
 岡備輕鐵の完成は益々此連絡を確實にし、
 至便にせられたるものと云ふべきなり
 府中は素と今の場所より東に當り、現今の
 府川村こそ、府中の西端なりしなり、然る
 に地の利は自然に市街を移轉せしめ、終に
 其要路に當れる現今の府中町に市街を形成
 するに至りしものなれば、岡備輕鐵開通後
 の形勢は推知するに難からざる也



宮崎亭園

(岡備湯田村驛東北七丁)

園は深安郡湯田村大字箱田にあり、園主細川篤夫氏は土地の有力家にして温厚篤實の間に高し。氏は園藝に熱心なる人にして夙に園藝に依り、本郡の特産品を製出せんと計畫し、早くも本園を創設して専ら優良なる柿を栽培し、爾來六星霜に満たざるに、既に良質の柿實を輸出するに至れり。植ゆる處のもの祇園坊、西條、富有、百目大御所等の良柿なり。現今の園の廣さ既に約五町歩に亘り、今猶は所有の山林を開墾して盛んに園を擴張しつゝあれば數年ならずして實に一大柿園たるに至るべし。

國分寺

(岡備神邊驛東北凡十五丁)

〔寺 國分〕
下御領村にあり、唐尾山と号す、眞言宗にして屢々興廢あり、現今草戸明王院の末寺たり、由緒書に依れば杉原時代に安那一郡に賦して修葺せしめ、二十貫の地を附して香火を資く、其後福島侯のため莊園悉く取揚げられ、延寶癸丑の洪水に流れ、草堂僅か一部を残せりと、水野侯の時代に及び、神邊網付山の材を賜り郡中に賦役して、延寶己未に成就せりと云ふ。
今の方丈二王門は如實上人の建立に係るもの昔時の二十分の一にも足らず、由來國分寺なる名稱のもの多くして由緒定かならず



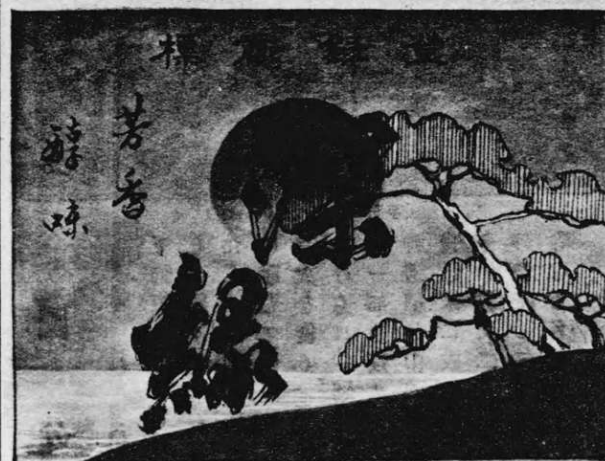
領受牌賞譽名國海會評品會建共會覽博各於
 產名中府



元 造 釀
 町中府郡品芦縣島廣
 平 和 原 安
 番 三 話 電
 番九九四九(京東)座口替振

領受牌賞譽名會進共及會評品會覽博各於
 領受牌金賞等一國海會評品合組造酒具島廣於

酒清等優醇芳



元 造 釀
 町中府郡品芦縣島廣
 平 和 原 安
 番 三 話 電
 番九九四九(京東)座口替振